

九州大学附属図書館付設教材開発センターだより

# ICER Newsletter

## あなた自身のセキュリティ対策をバージョンアップ! MOOC「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」が11月に開講します



「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」  
コースカード

インターネットバンキング、クレジットカードのオンラインショッピング、個人情報情報の流失等、サイバースペースでの活動に一抹の不安を感じたことはありませんか。しかし私たちの生活に今やネットでの活動は不可欠です。そこで、九州大学教材開発センターが秋に開講する MOOC 第二弾、「個人と組織のための最先端サイバーセキュリティ入門」に参加し、あなたのセキュリティ対策をバージョンアップしませんか。

今回の MOOC は、九州大学サイバーセキュリティセンター長の岡村耕二先生をお迎えし、サイバー被害に遭ってしまう仕組み、サイバーセキュリティ対策、そして組織体制についてご講義をいただく予定です。サイバーセキュリティセンターでは、グローバルに最先端のセキュリティ対策を推し進めています。是非、この機会に、身近な問題であるサイバーセキュリティについて、一緒に学びましょう。

なお、MOOC 制作は、教材開発センターが独自に所有するスタジオで行なっています。講義は日本語ですが、英語字幕を装備するので、海外の方も受講いただけます。皆様のご参加をお待ちしています。



【安西 弥生 准教授】

撮影の様子

### 九州大学サイバーセキュリティセンター

2014年12月1日開設。大学が担うべきサイバーセキュリティ強化の教育・研究に取り組む全学組織。米国メリーランド大学ボルチモア校 (UMBC) と連携してサイバーセキュリティに関する国際標準の基幹教育及び専門教育の講義プログラムの開発を行い、その実施を支援する。また、サイバーセキュリティ攻撃対策のための高度なセキュリティ技術、サイバー空間を頑健にする先進的技術などの研究を幅広く持続的に行う。

## M2B学習支援システムを使ってみませんか? ~2015年度後期より全学展開~



基幹教育院では、平成 27 年度 4 月より、全学部 1 年生約 2,700 名を対象に、M2B( みつば ) 学習支援システム (Moodle: e ラーニングシステム、Mahara: e ポートフォリオシステム、BookLooper: デジタル教材配信システム) を導入しています。特に、教員が作成したパワーポイント等のデジタル教材を BookLooper で配信する取組は、( 国立研究開発法人 ) 情報通信研究機構 (NICT) の研究助成を受けています。ここでは、学生によるデジタル教材の閲覧履歴等と、e ポートフォリオ、M2B システムの利用履歴、シラバスなどの学務情報などを統合して、教育ビッグデータを構築し、それを分析・視覚化することにより、学習・教育を支援しています。平成 27 年度後期からは全学の講義でご利用いただけますので、是非ご活用頂ければ幸いです。なお、8 ~ 9 月に M2B システムの講習会を開催しますのでご参加下さい。

【緒方 広明 教授(協力教員)】



## 着任のご挨拶



教授  
三木 洋一郎

平成27年4月から教材開発センターの協力教員となりました歯学研究院・歯科医学教育学分野の三木洋一郎です。より効果的な教育手法・教育プログラムの開発が研究テーマで、数年来、アクティブ・ラーニングの一つであるチーム基盤型学習法(TBL)の推進に取り組んでいます。ICT活用教育にも非常に興味を持っていますので、このセンターを介して、全学の教材開発に貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



教授  
緒方 広明

本年4月より協力教員として教材開発センターに参画しています、基幹教育院の緒方広明です。当センターでは、Educational Technology 部門に所属しています。M2B 学習支援システムを利用して、教員の皆様が講義で使われている電子教材を共有・配信し、学生の閲覧履歴やマーカー、メモ等のログデータを分析することによって、教材の改善に貢献できればと考えております。これによって、電子教材作成に関するPDCA サイクルがうまく回っていくことを期待しています。どうぞ宜しく御願致します。



准教授  
金 大雄

本年4月より教材開発センターの協力教員として着任しました、芸術工学研究院の金大雄です。映像コンテンツデザインを専門にしています。本コンテンツデザインラボでは、多彩なデジタルコンテンツの生成や表現手法、及びその問題点を探ってデジタルメディア表現の可能性を追求しています。また、それだけでなく、現在ある社会的なニーズを的確に捉え、それを満たすことができる包括的なデジタルコンテンツの設計を実践していくことを研究の中心に据えています。今後は本センターと協力し、教育現場におけるデジタルコンテンツの開発を目指したいと考えています。

## 次世代の教材開発を支える技術

～指と手の動きをセンシングするモーションキャプチャーデバイス～

今回紹介する次世代の教材開発を支える技術は、指と手の動きをセンシングするモーションキャプチャーデバイス「Leap Motion」です。この装置は、赤外線カメラと赤外線照射 LED を利用して、10本の指と手の位置情報を同時に認識することが出来ます。

私たちが普段コンピューターを扱うときに利用するキーボードやマウスは、コンピューターを操作するための特別な装置なので、私たちはコンピューターを扱うためにキーボードの配置やマウスの使い方を覚えなければなりません。もし、コンピューターをもっと直感的に操作できるとしたら、もっと多くの人が自由にコンピューターを使えるようになるはずで、Leap Motion は、指や手の動きを用いて直感的にコンピューターを扱えるようにするためのデバイスです。教材開発センターでは、Leap Motion を活用して直感的な操作で学習が可能な教材の研究開発に取り組んでいます。Leap Motion を活用して教育支援用のシステムを研究開発してみたい方がいらっしゃいましたら、是非私達と一緒に共同研究をしてみませんか。ご連絡お待ちしております。



【金子 晃介 助教】

## “How to improve your slideshows to make them more efficient”

7月24日(金)、伊都キャンパスの稲盛財団記念館稲盛ホールにて、講演会「PowerPoint や Keynote などによるスライドショーをもっと良くする方法」を開催しました。



本センターでは、電子教材活用教育の啓蒙の目的で各種講習会・講演会を実施しています。今回は、ジョン・オージェリ氏(パリデジタル大学(UNPIdF)共同創設者兼プロジェクト・ディレクター)をお招きし、「プレゼンテーションで使うスライドショーの作成において注意すべき要点」について講演していただきました。英語での説明でしたが、オージェリ氏が現在勉強中だという日本語も交えて行われ、そのプレゼンテーションスタイルは、笑いを誘い聴衆を飽きさせることがありませんでした。質疑応答時間には、たくさんの質問があり、聴衆の興味の高さが感じられました。



アンケート結果からも講演内容は好評を得ていました。本講演ビデオ、発表資料を学内限定で公開する予定ですので、本講演を見逃した方は、是非こちらをご覧ください。

【岡田 義広 教授 (教材開発センター長)】

## M2B学習支援システム講習会 -Moodle Mahara BookLooper- を開催します

基幹教育院では、平成27年度前期から、全1年生を対象に、eラーニングシステム(Moodle)、eポートフォリオシステム(Mahara)、デジタル教材配信システム(BookLooper)の利用を開始しました。平成27年度後期からは、全学部を対象に運用を開始する予定であることから、本講習会では、M2Bシステム(Moodle/Mahara/BookLooper)の具体的な操作方法や授業での活用事例について紹介し、体験して頂きます。

伊都	8月6日 9月3日	15:00～17:00	センター 3号館 3105・3106号室
箱崎	8月7日 9月1日	10:00～12:00	中央図書館 第2情報サロン
病院	9月4日	17:00～19:00	総合研究棟 2階 IT ルーム

お申し込みはこちら ▶ [http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics\\_20150703](http://www.icer.kyushu-u.ac.jp/topics_20150703)